



神戸森林植物園のアジサイ観察会の記録

担当：Cグループ

案内：李三

記録：荘村

1. 実施日： 令和7年6月12日(木)
 徒歩組 神戸市営北神線谷上駅 10時10分集合
 バス組 神戸電鉄有馬線北鈴蘭台駅 10時45分集合
3. 参加者： 21名 (徒歩組13名 バス組8名)
4. 行程： 植物園正門前で合流してスタート(11:30)～森林展示館等を自由見学～森林展示館付近で昼食～園内ガイドツアー(13:00～15:00)～森林展示館前で解散(15:10)

この例会は梅雨入り後すぐの日程となり降雨中止を予想していましたが、前線の南下で雨にあわずまあまあの天気で行くことができました。この時期の植物園は例年アジサイイベント期間のため人出が多く全員が無料バスに乗車できないことが考えられ、植物園へのアクセスを徒歩コースとバスコースの2つに分け足に不安のある人のみバスコースで行くという企画で実施しました。



徒歩組の山田道の道中



モリアオガエル



森林展示館前で集合写真

予想通りバス組が先に植物園に到着し、しばらくして徒歩組と合流して植物園に入場しました。昼食までの小一時間、森林展示館等を見て廻りました。館内には樹木だけでなく生きたモリアオガエルなど小動物も展示されており、皆さん興味深く観察していました。

三々五々、昼食を済ませ展示館前で集合写真を撮り、この植物園で40年近く働いておられるベテランガイドさんの案内で園内ガイドツアーがスタートしました。展示館前広場の大木セコイア類の説明から始まり同じように見える樹皮であるが押さえた時の感触でその違いがわかるとのことです。少し移動し小さな人工池でモリアオガエルの



園内ガイドスタート



モリアオガエルの卵塊



ヒメアジサイ

卵塊を観察しました。このカエルは日本の固有種で最大の特徴は卵を水上に伸びる木々に産みつけることでこの梅雨の季節の風物詩になっています。次にあじさい坂のヒメアジサイの説明をうける。六甲花崗岩由来の土壌は弱酸性で青く発色しているが、露が多い気象条件のもと澄んだ空色になり「六甲ブルー」と愛称されているそうです。次に登場するシチダンカはシーボルトが江戸期に西洋に紹介したアジサイで、その後日本では人目にふれることなく「幻の花」と呼ばれていましたが、1959年六甲山中で偶然発見されて一躍人気の花になりました。



シチダンカ



シアトルの森にて



ラクウショウの気根

その後あじさい園を抜けてシアトルの森へ行き北米産の針葉樹の説明等をうけて、東谷池に向かいラクウショウには気根という珍しい根が生えている話を聞きました。その他ツクバネなど色々な花を紹介してもらいました。今日のガイドさんの話はいずれも興味深いもので自然観察の楽しさが伝わってくる内容でした。

園内ガイドのスタート場所にもどり、そこで例会の解散となりました。そのあと全員が北鈴蘭台駅行きのバスに乗り無事に帰路につきました。